

# 「(仮称) 宮城気仙沼風力発電事業」計画段階環境配慮書 に対する岩手県知事意見

令和4年12月5日付け  
東急不動産株式会社宛て

本事業は、東急不動産株式会社が宮城県気仙沼市において、単機出力が 4,200～5,500 kW 程度、高さが最大 183m の風力発電機を最大 10 基（合計出力約 55,000 kW）設置するものである。

本事業の事業実施想定区域（以下「想定区域」という。）及びその周辺には、森林法（昭和 26 年法律第 249 号）に基づき指定された水源かん養保安林が岩手県側にも連続して分布している。また、想定区域周辺は、宮城県の県立自然公園条例（昭和 34 年宮城県条例第 20 号）に基づく県立自然公園気仙沼の普通地域に含まれ、岩手県側には同公園を眺望景観の一つとし、人と自然との触れ合いの活動の場でもある大森山が存在する。

このため、今後の方法書以降の手續においては、以下の措置を適切に講じるとともに、その検討経緯及び内容を各図書に記載すること。

## 1 総括的事項

- (1) 本配慮書に対する環境の保全の見地からの意見を踏まえ、環境影響評価項目を適切に選定し、現地確認を含めた必要な情報の収集・把握を適切に行うこと。それにより、環境影響の重大性の程度を整理した上で、環境影響を回避又は極力低減するよう事業実施区域を絞り込み、風力発電機及び附帯設備（以下「風力発電機等」という。）の位置・規模又は配置・構造（以下「位置等」という。）を適切に決定すること。
- (2) 風力発電機等の位置等の決定に当たっては、環境影響の回避・低減を優先的に検討し、事業性を優先的に検討することがないようにすること。
- (3) 調査、予測及び評価に当たっては、専門家等からの助言を踏まえつつ、入手できる最新のデータや知見に基づくとともに、できる限り定量的な手法を用いること。
- (4) 想定区域及び周辺の関係者や住民のみならず、より広い範囲の住民に対し、事業内容や環境影響評価の十分な説明を行い、理解を得られるよう努めること。

## 2 個別的事項

### (1) 水環境

想定区域の南西部には、横沢川水源や水源かん養保安林、干害防備保安林が存在していることから、土砂及び濁水の流出によるこれら水環境への影響が懸念される。

このため、工事の実施により発生する土砂及び濁水の流出が水環境に与える影響について、専門家等からの助言を踏まえた十分な調査、予測及び評価を実施し、

その結果に基づき、井戸、湧水及び河川との距離を十分に確保するよう、風力発電機等の位置等を適切に決定すること。

## (2) 地形及び地質

想定区域の大部分にわたり花崗岩質岩石が分布しており、地質の特性によっては、土砂及び濁水の流出による周辺環境への影響や豪雨時等における斜面崩壊の誘発が懸念される。

このため、地形改変が地質環境に与える影響について、専門家等からの助言を踏まえた十分な調査、予測及び評価を実施し、その結果に基づき、工事により土地の安定性を低下させるリスクが高い箇所を回避するよう、風力発電機等の位置等を適切に決定すること。

## (3) 動物

想定区域及びその周辺では、環境省レッドリストやいわてレッドデータブックに掲載されている希少な哺乳類、鳥類、両生類、昆虫類、魚類の生息が確認されており、生息環境の変化によるこれらの動物への影響が懸念される。

このため、工事の実施、地形改変及び施設の稼働が動物に与える影響について、専門家等からの助言を踏まえた十分な調査、予測及び評価を実施し、その結果に基づき、動物の重要な生息場所の喪失、移動経路の分断を回避するよう、風力発電機等の位置等を適切に決定すること。

## (4) 景観

想定区域周辺の岩手県側には、室根高原が存在し、重要な景観資源及び観光資源となっている。また想定区域周辺には、室根山や大森山をはじめとした主要な眺望点が存在することから、施設が介在することによるこれら主要な眺望点からの眺望景観の変化の影響が懸念される。

このため、施設の存在が景観に与える影響について、専門家等からの助言を踏まえた十分な調査、予測及び評価を実施し、その結果を踏まえ、主要な眺望点や観光施設等からの眺望景観の改変を回避するよう、風力発電機等の位置等を適切に決定すること。

## (5) 人と自然との触れ合いの活動の場

想定区域周辺の岩手県側には大森山があり、騒音、振動等により、人と自然との触れ合いの活動の場としての雰囲気や快適性など利用面の特性が変化することによる影響が懸念される。

このため、工事の実施、施設の存在及び稼働が人と自然との触れ合いの活動に与える影響について、専門家等からの助言を踏まえた十分な調査、予測及び評価を実施し、その結果に基づき、重要な触れ合いの活動の場の喪失や利用面の特性変化による触れ合いの活動への影響を回避すること。